

県内景況情報

4月期

製造業

〈食料品〉

〔パン・菓子製造業〕

人手不足と原材料の価格上昇、更に卵の流通が一部滞る等、菓子製造業には厳しい状況が続いている。コロナが落ち着き観光地などは活況であるようだが土産品の菓子を製造するにも思うにまならないメーカーも出ていると聞く。

〔畜産食料品製造業〕

燃料、包材など様々な価格の高騰により収益減である。

〈繊維工業〉

〔和装製品・その他の衣服・繊維製身の回り品製造業〕

製造コスト上昇に伴い若干の販売価格上昇は、散見できるも十分な転嫁はできていない。

〈木材・木製品〉

〔家具製造業〕

様々な生活必需品の高騰により、家具などの耐久消費財の購入を控える傾向が続き非常に厳しい状況である。

〔家具製造業〕

物価上昇が止まらない中で、人件費を増額できず苦しんでいる企業が多い。

〈印刷〉

〔印刷業〕

紙の大幅値上げ、CTP、インキ、電気料金の値上げ、さらに電子化等によって、紙の印刷物の需要が減少していきそうだ。組合員減少の恐れも大きい。

〈窯業・土石製品〉

〔砕石製造業〕

コロナ禍も落ち着いてきた中で一般経済は回復基調に動いているものの、エネルギーコストの増大により砕石業としては、厳しい状況が続いている。

〈鉄鋼・金属〉

〔金属製品製造業〕

ようやくコロナ禍から解放されつつあり、売上も回復しつつある事が感じられる様になってきた。しかし物価高騰の速度、値上げ幅の大きさは、売上の回復を超えて原価を押し上げてきている。結果、利益率は激減している。売上回復して一見景気回復と思われそうだが、原材料・諸経費諸々の物価高で利益は上がらない。更に助成金が終了するなど、厳しさが増している。

〔鍛鋼・鍛工品・鋳鋼製造業〕

業界全体として低迷が続いている。

〈その他の製造業〉

〔豊等生活雑貨品製造業〕

コロナ解禁により、アウトドアの消費者が増え、ほぼ例年と変わらない受注であった。この先の見通しがわからない状況で、少し危惧し、注視している。

非製造業

〈小売業〉

〔食肉小売業〕

牛肉、豚肉、鶏肉ともに相場が高止まりし、特に牛肉の高値感が消費者離れを生み出しかねない。各社、人手不足に悩む。賃金をUPしてもなかなか応募が来ない。

〔鮮魚小売業〕

包装資材の値上げが激しい。

〔花・植木小売業〕

3月に引き続き開店などの御祝が昨年より上昇した。仕入がセリ対応でなく注文や先取が増えている。人手不足のため人件費をあげざるをえない状況である。

〈卸売業〉

〔生鮮魚類卸売業〕

インバウンドの増加、飲食業界の復活好転により、鮮魚の価格・動きにも好転の兆しが見える。このまま元に戻ってほしい。

〈商店街〉

〔福岡市〕

3月27日の地下鉄七隈線延伸事業完工開業（櫛田神社前駅新設）後、人の流れも櫛田神社から明治通りへ増加したようだ。インバウンドも多くみられ、商店街内は活気を取り戻しつつある。

〔北九州市〕

商店街の歩行者通行量が増えてきた。外国人個人旅行（カップル）が増えてきた。

〔朝倉市〕

コロナの状況が好転し、コロナ以前の商業活動に戻りつつある。また、消費者の方の意識動向も上がり、購買力も回復の兆しが見受けられる。反面、業種によってはコロナの影響が残り、売り上げが回復するのに時間がかかりそうな業界も多く見られる。商店街全体の活動状況としては新規業種の参入が増え、全体としての購買層の年齢層が広がりつつある。

〈サービス業〉

〔ビルメンテナンス業〕

当月の売上高は前年同月と比べると約31%の減少だった。また、前前年同月と比べると約65%の減少となった。

〈建設業〉

〔職別工事業〕

仕事量はあるものの、同業他社の著しい増加や、他業種からの参入が多いため、受注機会が減少している。

〔電気工事業〕

物件が増加し、売上も増加しているが、全体的に人手不足が大きな課題となっている。

〈運輸業〉

〔道路貨物運送業〕

24年問題のドライバーの時間外労働の制限により、長距離ドライバーの職場離れが懸念され始めており、対応策が急がれている。売り上げについては、回復してきており、運賃交渉も徐々に進んできてはいるが、燃料価格の高止まり、人件費等諸経費の値上がりで、収益は好転しきれない。

福岡県の業種別D・I値の変化

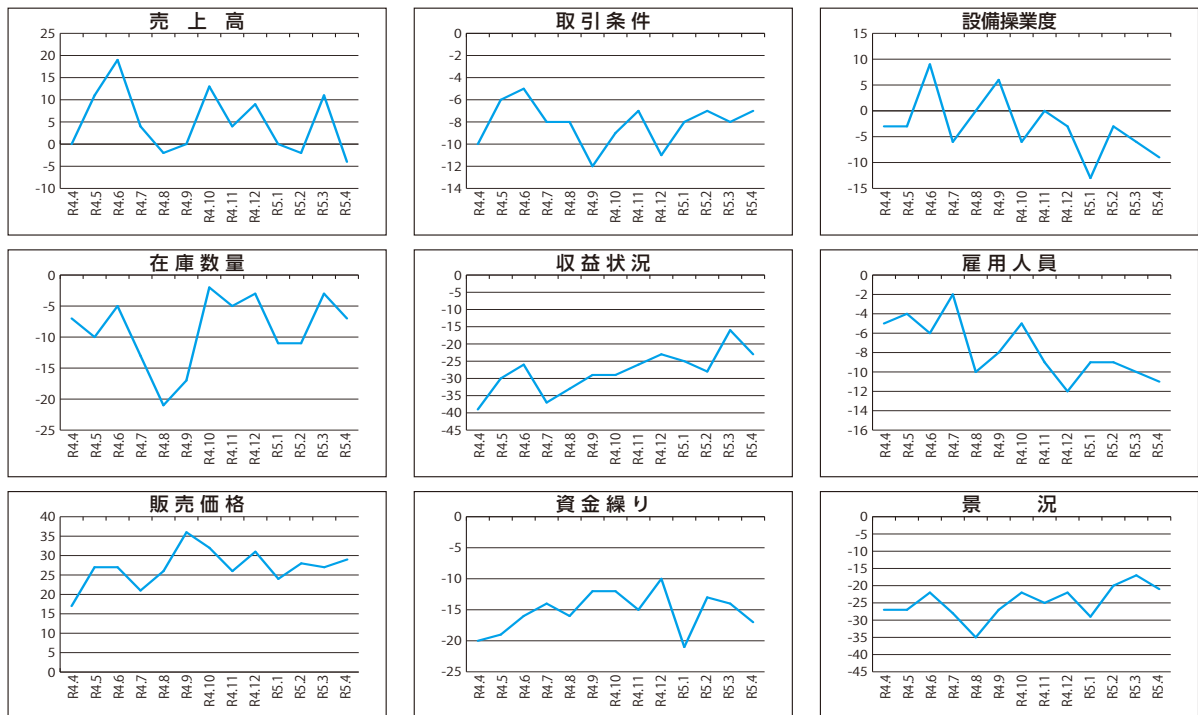
(福岡県中小企業団体中央会調査)

業種	項目	前年同月比								
		売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	景況
製造業	食料品	↓	↓	→	→	↓	↓	↓	→	↓
	繊維・同製品	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	木材・木製品	↓	↓	↓	→	↓	→	→	→	↓
	印刷	→	↓	↑	→	→	↑	→	→	↓
	窯業・土石製品	→	→	↑	→	↓	→	→	→	→
	鉄鋼・金属	↓	→	→	→	↓	↓	→	→	↓
	一般機器	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	電気機器	→	→	→	→	→	→	→	→	→
非製造業	卸売業	↓	→	→	→	↓	→	—	→	↓
	小売業	→	→	→	→	→	→	—	→	→
	商店街	→	→	→	→	→	→	—	→	→
	サービス業	→	—	→	→	→	→	—	→	→
	建設業	→	—	→	→	→	→	—	→	→
	運輸業	→	—	→	→	→	→	—	→	↓
	その他	↑	—	↑	↑	↑	→	—	→	↑
D・I		-4	-7	29	-7	-23	-17	-9	-11	-21

↑ 増加・上昇・好転 ↗ 増加・上昇・好転の傾向 → 不変 ↓ 減少・下落・悪化の傾向 ↓ 減少・下落・悪化

D・Iとは…Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業界感や設備、雇用人員の過不足などの判断を指数化したものである。前年同月に比べ「好転」・「増加」したとする割合から「悪化」・「減少」したとする割合を差し引いた値。

●前月比D・Iの動きをみると、売上高の悪化が著しく、また、収益状況や資金繰り等も悪化しており、総じて業界の景況も悪化している。



全国中小企業団体中央会では、ホームページ上で月次景況調査(情報連絡員全国集計)を公開しておりますので、ぜひご覧下さい。

全国中小企業団体中央会ホームページ <https://www.chuokai.or.jp/>